

家庭学習の手引き



家庭学習によって期待できる効果

- ① 授業に集中するためのウォーミングアップ** **予習**
教科書を読んで重要語句に線を引く、意味調べをするなど
→授業の内容がある程度頭に入っているため、課題意識を持って授業に臨むことができます。
- ② 授業で学習した内容を確実に定着させる** **復習**
授業のポイントをまとめる、はっきりしなかった所を確認する、類似問題を解くなど
→学習してすぐに復習した方が記憶力がアップすると言われています。「学習したことはその日のうちに時間をかけずに確認すること」が効果的です。
- ③ 知識を深め、学習に対する興味を広げる** **発展**
興味を持ったことを本やインターネット等で自分なりに調べてまとめるなど
→単なる“知識の詰め込み”ではなく、「知りたい」という欲求や「新たな知識を得た喜び」の連鎖が、あなたの学びの扉を開け、世界を広げてくれるのです。これこそが「学ぶ楽しさ」です。

充実した家庭学習をするために…

- ① その日の復習、明日の予習、テスト勉強を計画的・継続的に**
今日習ったことはその日のうちに復習し、明日の授業の予習を行うことが大切です。一方で、単元テストや定期テスト、実力テストの日程を確認し、計画的に対策を立てて取り組みましょう。
- ② 規則正しい生活から学習時間の確保を**
起床・食事・就寝時刻を決め、規則正しい生活を送る中から、家庭学習の時間を確保しましょう。部活動時間の違い（夏場と冬場）によってそれぞれの時間の使い方を考えましょう。
- ③ 集中できる学習環境を**
学習に集中できる場所、教科書や参考書等の配置など、必要な情報が入手しやすい環境を自分で整えましょう。また、テレビやゲームのスイッチを切る、スマホを預けるなど、けじめをつける勇気を身に付けましょう。

階上中学校の「家庭学習ノート」のルール

- ・階上中学校では、全校生徒が毎日家庭学習に取り組み、ノートを提出することになっています。
- ・各自家庭学習ノートを準備してください。（1年生は1冊目は学年で準備します。）
- ・毎日家で取り組み、翌日担任の先生に提出しましょう。（担任の先生以外が点検することもあります。）
- ・学習する内容を自分で決めて取り組みましょう。「家庭学習の手引き」や各教科の先生のアドバイスを参考にしましょう。どんな学習をしていいかわからず、困ったときは、遠慮しないで、担任の先生や教科の先生に聞きましょう。
- ・「提出すること」が目的にならないようにしましょう。「自分の力を伸ばすための学習」になるよう、いろいろ試して自分に合った学習方法を見つけましょう。

「家庭学習ノート」の使い方

ノートの例

ノートには学習内容の他に

- ①学習した日
- ②学習の開始時刻と終了時刻
- ③目標設定と振り返り
- ④三文日記

を書きます。

- ・ページ数は特に決めません。
- ・「目標」と「振り返り」を書くことがポイントです。

★目標=何を、何のために勉強するのか

★振り返り=何が分かったのか

何が分からなかったのか

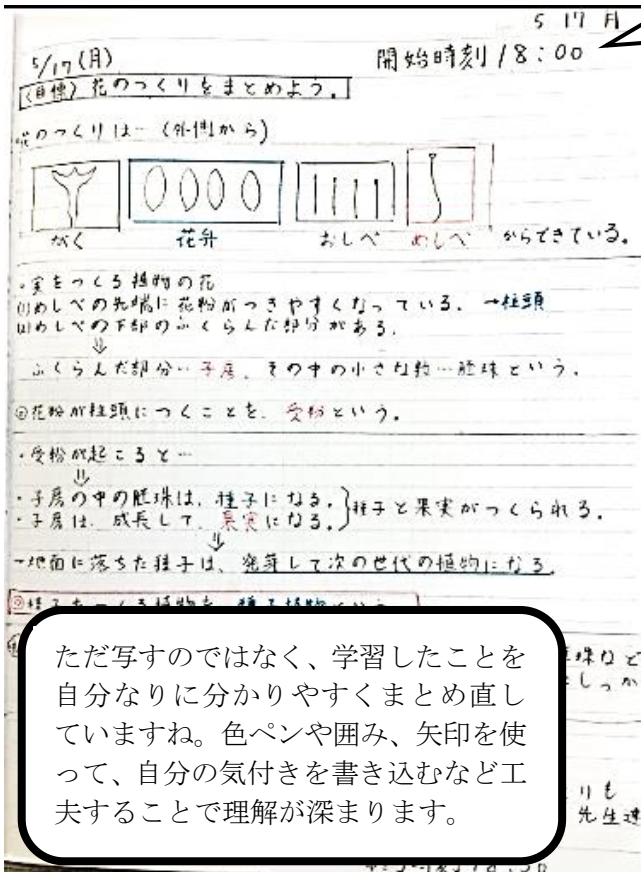
- ① 4月15日(木) ② 開始時刻 19:00
- ③ 〈目標〉・不定詞の3つの用法を使い分ける。
・消化のしくみを覚える。 など

〈学習内容〉

- ・授業の内容のまとめ直し
- ・問題の解き直し
- ・ポイントの整理 など

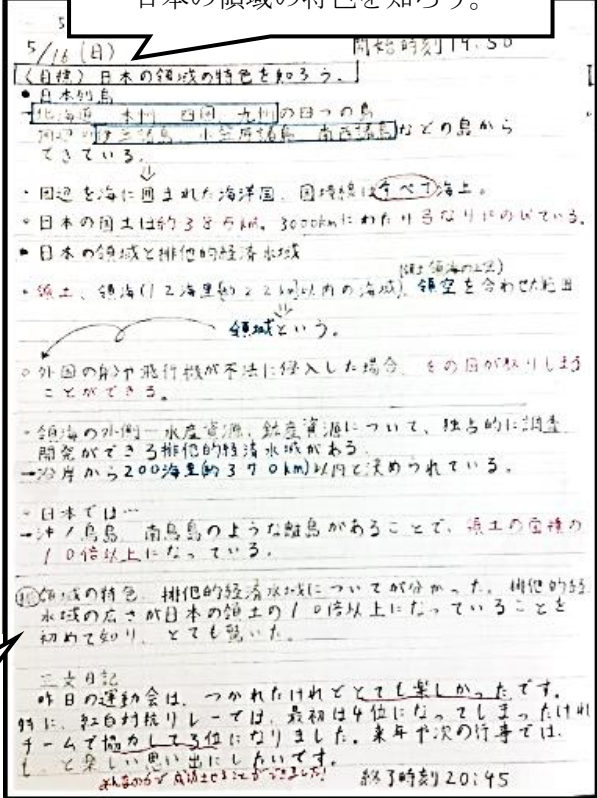
② 終了時刻 19:40

- ③ 〈振り返り〉分かったことや疑問に思ったこと
- ④ 三文日記



開始時刻と終了時刻を確認しよう
「ながら勉強」はやめて集中しよう

目標は具体的に
・花のつくりをまとめよう。
・日本の領域の特色を知ろう。



ただ写すのではなく、学習したことを自分なりに分かりやすくまとめ直していますね。色ペンや囲み、矢印を使って、自分の気付きを書き込むなど工夫することで理解が深まります。

振り返り
・学習して分かったことや感想、これからの学習で心掛けたいこと

三文日記で書くことに困ったら...

- ・楽しかったこと ・嬉しかったこと ・残念だったこと ・悲しかったこと ・先生への質問
 - ・悔しかったこと ・頭にきたこと ・疑問に思ったこと ・最近気になること
 - ・最近悩んでいること ・マイブーム ・お薦めの〇〇 ・実は私〇〇なんです などなど
- ☆「日記」という言葉にとらわれず、「今日何もなかったし……」と言わず、自分の心と向き合ったり、周囲に目を向けたりしてみよう。もちろん三文以上でもOK。

5 教科の学習について

国語

- 〈予習〉・教科書を音読する。(声に出すことが大事！)
 - ・語句の意味を調べる。(文章の中でどう使われているかを考えること)
- 〈復習〉・ノートを確認しながら、もう一度音読する。
 - ・ワークに取り組む。(授業で学習した部分をその日のうちにやるのが望ましい)
- 〈発展〉・ことわざ、慣用句、四字熟語など言葉の知識を増やす。(図書室、タブレットの活用)
 - ・詩や俳句、和歌などを視写して感想を書く。(図書室、タブレットの活用)
 - ・新聞記事を切り抜き、要約して感想を書く。(新聞記事の活用)
 - ・新聞のコラムを書き写し、感想を書く。(新聞記事の活用)



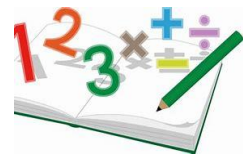
社会

- 〈予習〉・教科書を読み、重要語句をノートに書き出し、その意味をまとめる。
- 〈復習〉・ワークや白地図に取り組み、間違ったところを繰り返し学習する。
 - ・教科書の地図や略図・年表などをノートに書き、その特徴をまとめる。
- 〈ポイント〉★地理は、地図に書きながら勉強する。
 - ★歴史は、年表にまとめ、いつ、どこで、誰が、何をしたかをまとめる。
 - ★公民は、日本国憲法の前文や条文に注意する。



数学

- 〈予習〉・教科書を読み、語句を確認する。
 - ・教科書の例題を見て解法を確認し、自分で解いてみる。
 - ・分からないところに線を引き、授業で確認する。
- 〈復習〉・授業中につまずいた問題を解き直す。
 - ・ワークや問題集を使って類似問題に取り組む。(途中式や考えも書く)
- 〈発展〉・教科書の章末にある「数学のまど」を解いてみる。
- 〈ポイント〉★予習>復習 予習が大切です！！



理科

- 〈予習〉・教科書を読み、太字になっている重要語句の意味を理解する。
- 〈復習〉・観察、実験の目的、方法、結果、注意点について確認し、分かったことをまとめる。
 - ・圧力や密度、オームの法則、仕事率などの公式を覚え、繰り返し問題を解く。
 - ・化学反応式、グラフ、作図を練習する。
 - ・章末問題やワークの問題に取り組む。
- 〈発展〉・テレビや新聞など日常生活の中で興味を持ったことを調べて自分の考えを持つ。
(図書室、タブレットの活用)
- 〈ポイント〉★記述問題は、はじめから答えを写すのではなく、まず自分なりの答えを書いてみることにしよう。



英語

- 〈ポイント〉★リズムカルに読めるようになること、意見や考えを英語で表すことが大事です。
- ★文構造に慣れ、語彙力を増やしていくことが大事です。



【Step 1】力をつける	【Step 2】力を伸ばす	【Step 3】力を試す
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書本文を音読し、新出単語と日本語を書く。 ・教科書本文を音読し、重要文と日本語を書く。 ・教科書本文を音読し、本文を読んだ回数を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・重要文とその日本語を書き、次時に習う本文を書き写す。 ・次時に習う新出単語と本文を書き写し、チャンクごとに日本語訳を付す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・言語材料(文法事項)のまとめを書き写し、問題集に取り組む。 ・使用する言語材料を決定し英作文を書く。 ・上記を自分で添削する。

技能教科の学習について

- 作品やレポートなどの提出は、期限を守って提出しましょう。
- 授業中は先生の説明や指示をよく聞いて、集中して取り組みましょう。
- 作品の制作については毎時間の積み重ねが大切です。時間を意識し、明確な目標を持って取り組みましょう。
- 特に技能教科は日常生活にかかわることが多いので、以下の各教科の学習方法を参考にして、できることから実践してみましょう。

〈音楽〉

- さまざまなジャンルに音楽を聴く。機会があれば音楽会やコンサートなどにも積極的に出かけ、生の演奏に触れる。
- 日本や世界のさまざまな音楽に興味をもち、調べてみる。



〈美術〉

- スケッチや工作などのもの作りに取り組む。
- 美術館や展覧会に出かけてみる。
- 日本や世界のさまざまな美術作品や画家、工芸家などに興味をもち、調べてみる。

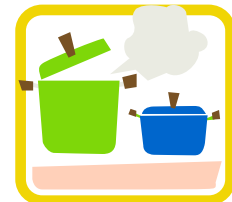
〈保健体育〉

- 早寝・早起き・朝ごはん
- 栄養・運動・睡眠をバランスよくとる。
- 部活動の自主練習など進んで体をきたえる。



〈技術〉

- 生活で不便を感じることを、授業で学んだ工具や加工の知識を生かして改善する。
- エネルギー資源や物の動くしくみに関心をもつ。
- 学んだことを生かして、家庭で植物や野菜を栽培してみる。
- 情報モラルを意識して、コンピュータを活用する。



〈家庭〉

- 栄養のバランスを見直し、自ら調理する。
- 洗濯を手伝う。衣類の補修をする。
- 快適で安全な住み方を工夫する。掃除を手伝う。
- いろいろな販売方法や支払い方法に関心をもち、消費者として望ましい金銭感覚を身に付ける。

詳しくは、授業の中で各教科の先生から説明があります。よく聞いて、“これならできそうだなあ”と思うことからやってみましょう。

不得意教科の克服はもちろんです、好きなことや得意なことをどんどん伸ばして行ってほしいと思います。また、食べ物と同じで、4勉強も偏らずバランスよく行うことが大切です。

積み重ねていくと「分かった」「できた」と感じる自分に出会うときがきます。「出さなければいけないから……」とか「適当にやっておけばいいから……」というような作業的な学習ではなく、目標をもって計画的に進め、自分の驚き、感動に気付いて、自ら学んでいく家庭学習にしていきたいと思います。